

無神経な「拓魂」碑文と満洲開拓団

宮下 春男

<拓魂慰霊祭>

毎年4月第2日曜日には、元満洲開拓団、元満洲義勇隊開拓団、元満蒙開拓義勇軍（隊）訓練中隊、元満洲の農業開拓に何らかの係わりを持った人々、団員や隊員だった人々、その家族や関係者が、全国から東京都多摩市連光寺の“拓魂公苑”に集まってくる。拓魂公苑は京王線聖蹟桜ヶ丘駅近くにあり、新宿駅から京王線準特急で約30分、聖蹟桜ヶ丘駅からバスに乗換え約15分で着く。バスを降りて緩い坂道を進行方向へ40メートル程歩くと三叉路の右側が公苑で、その奥に「拓魂」と彫られた石碑が置かれている。その両側には卒塔婆とも思える各団碑が林立している。碑文によれば173基が各団等により建立されたとのことである。この日に集い、かの満洲で犠牲となった人々の霊を偲び慰めるためにはるばるとやって来た方達である。

平成22(2010)年4月11日(日)は4月の第2日曜日。私は新宿駅9時11分発の京王線準特急に乗った。目的は聖蹟桜ヶ丘、正確には多摩市連光寺にある「拓魂」碑への慰霊参拝と、この日に全国から集う人々に会うためである。午前10時頃公苑に着くと、既に三々五々、人々が各々の団碑の前に塊のように集い、線香、花や清酒等供え物を捧げ、その前で満洲の地で亡くなったかつての仲間、親兄弟の霊を偲び、かつ参拝者お互いの久闊を叙す姿が広い苑内のあちこちに色々な輪を形作っていた。11時を過ぎる頃にはさしもの苑内は人で溢れるばかり、幸い晴天に恵まれ団碑の前にシートを広げてくつろぐ場面もあった。また、来苑者は元青少年義勇隊関係者を除くと当事者である1世は少なく、子の世代、中には孫を連れた人もいて、3世代あるいは4世代に亘ってこの慰霊祭に集まった人達であった。

しかし、道路から苑内に入る通路は鎖が掛けられたままで、人々はその脇から入って行った。私も鎖を跨ぐことをしないで脇から入ったのだが、何故か寂しい気がした。公苑の奥には公苑の由来を書いた碑がある。

<拓魂公苑>

先ず「拓魂」と書かれた碑である。裏側には「満洲開拓殉難之碑、昭和38年4月、加藤完治書」とある。この人の名は満洲開拓に関心のある方で知らない人はあるまい。満洲開拓の父とも言われ、満蒙の農業開拓を推進した先駆者であり、また茨城県で私立高等学校を運営しながら、特に“内原訓練所”と言われた、青少年を満蒙開拓に送り出すための基礎訓練を行う訓練所を運営したことでも知られている。

拓魂公苑の由来は「拓魂」碑の左奥に建立されている碑の上段に刻まれたこの碑文をお読みいただければ一目で理解されよう。

満洲開拓殉難者之碑建設の由来

この碑は 満蒙の眩野に無惨に散った八万の開拓者と その人々を守りつつ自らも逝った関係者多数の御霊が合祀してあります

昭和七年(一九三二年)はじめられた満洲の開拓事業は 満蒙の天地に 世界に比類なき民族協和の平和村建設と 祖国の防衛という高い日本民族の理想を実現するために 重大国策として 時の政府により行われたものであります

凍土をおこし 黒土を耕し 三十万の開拓農民は 日夜 祖国の運命を想いながら 黙々と開拓の鋤を振りました 然し その理想の達せられんとした昭和二十年の夏 思わざる祖国の敗戦により 血と汗の建設は一瞬にして崩れ去り 八万余の拓士と関係者は 満蒙の夏草の中に露と消えていきました

そして そこには未だ一輪の花も供えられたことはないのです

ここに同志相図り 水清きこの多摩川の丘に一碑を建て 祖国と民族のために 雄々しく不屈の開拓を闘い抜き そして散っていった亡きこれらの人々の御霊をお祀りすると共に 再びかかる悲しみのおこることなき世界の平和の実現を心からお祈りせんとするものです

昭和三十八年八月

建設委員長 安井 謙

公苑は昭和 33 年に満洲開拓殉難者之碑建設委員会が設置され、多摩市聖蹟桜ヶ丘の一角に土地を求め碑が建立された。昭和 38 年 8 月には盛大な除幕式が挙行され、以後毎年 4 月第 2 日曜日を拓魂慰霊の日と定めて、毎年執り行われてきた。38 年から参加している人の話では、初期の頃には苑内に入りきれない程に多くの参加者があったという。時が過ぎるとともに高齢化し、参列者が減少して行った。その後の公苑運営については、これも経緯を説明した碑文が下段にあるのでこれも原文を紹介する。

上掲の由来文にもあるように、非業に斃れた満洲開拓犠牲者の御霊を祀るべく、関係者相図り、昭和三十二年に国や全国都道府県の強力なご支援と、内閣総理大臣や各国务大臣を歴任された方々など多くの有識者のご理解とご協力のもと、満洲開拓殉難者之碑建設委員会(委員長安井誠一郎東京都知事)が発足し、その後、跡を継いだ実弟の安井謙氏(後の参議院議長)を筆頭とする建設委員各位の並々ならぬご尽力によって、同三十八年ようやく満洲開拓に所縁のある景勝の地、ここ聖蹟桜ヶ丘の一角を選定して土地を取得し、その中央に拓魂碑を建立、同年八月十日に除幕式が執り行われました。

さらにその後、碑の周囲を取り巻くように、関係者それぞれが在満当時所属していた開拓団ごとの団碑の建立も逐次行われ、その総数百七十三基を数えるに至り 現在見られるような拓魂公苑に整備されました。

爾来三十有余年、全国拓友協会と拓魂碑奉賛会の共催のもとに、桜花爛漫の四月の第二日曜日を「拓魂祭」の例祭日と定め、毎年毎年全国津々浦々から集い来る老若男女の数はたとえ荒天風雨の日となるも 1,000 名を下ることはなく、各々がこの拓魂碑及び各団碑の前にぬかずき、香を焚き花を捧げ、在りし日の肉親縁者や同志を偲ぶ慰霊の行事を続けて今日に至りました。

いま、私ども満洲開拓関係者の最大の悲願は、この公苑と拓魂碑等の永久護持にあります。そのための方途として、この度理解ある関係各位のご尽力と、東京都知事のご英断により、これらを都有施設としてお引き受け戴くとともに、爾後の維持管理

をもお願いすることとなりました。

それに伴い、ここに全国拓友協会の所有にかかる公苑敷地一六二一㎡及び樹木、拓魂碑団碑等の一切を東京都に寄付することと致しました。

拓魂よ永遠なれと念じつつ

平成十三年一月吉日

社団法人 全国拓友協会

会長

戸谷義次

建立以来 38 年にして、自己運営でなく東京都へ管理を移管する為に、公苑とその施設一切を都に寄付したのである。平成 22 年は建立されてから 47 年、都に移管されてから 9 年、流石に苑内は雑草や枯枝等が掃除され管理されていたが、日曜日とは言え、例祭日にも拘わらず入り口は鎖が掛けられたままであった。都の主催ではなく縁故者が自主的に行っているという解釈なのだろうか。公苑に隣接して都立桜ヶ丘公園がり、近くには公園管理事務所も存在している。

私が参加した慰霊祭風景は平成 20 年からであって、参拝者の方のお話では平成 18 年までは共同の拓魂祭が開かれていたとのことであった。たまたま、(社)全国拓友協会を探すためにHPを開いていたら「多摩ニュータウンタイムス」が出て来て第 42 回拓魂祭(2004, H16 年)の催しを報じており、写真では拓魂碑の後ろに幔幕が張られ、碑を背に挨拶する姿があり、それを取り巻く大勢の人の輪があり、テントも張られている様子が映し出されていた。

平成 22 年の例祭日は 20 数団の関係者、凡そ 150 人程の参加者であった。12 時を過ぎると何時の間にか人の気配が薄れ、上野駅に出てパーティを開くという方もいた。午後 1 時の苑内は酒を酌み交わしている 2～3 のグループ以外は静になっていた。

私は改めて団碑を参観した。団碑の順序は入植順或いは都道府県順などではなく、建立について有志が一致した順番に建立されたのだろうか。碑は圧倒的に義勇隊開拓団又は義勇軍(隊)の団碑が占めていた。一般開拓団は 40 数碑であり、避難途上で多くの犠牲者を出した開拓団では第 1 3 次興安東京荏原開拓団(東京送出)、第 6 次黒咀子開拓団(石川、富山)、第 4 次哈達河開拓団(全国混成)、第 8 次韓家開拓団等の碑があった。県単位の碑もあり、また、弔いの碑文の団碑もあった。

団碑には、倒伏防止のために鉄パイプが団碑の上部に廻らされており、如何にも情のない無機質を感じた。自由参拝になった途端に公苑入口の鎖も外さず、まるで余人立ち入るべからずと言っているようであり、団碑に巡らされた錆びたパイプは刹那的で無神経であり切ない気持ちにさせられた。崖側の下には民家が接近しており、倒立防止の為にはやむを得ない措置なのだろうが、情のない、それでも管理してやっているという表示なのだろうか。

<満洲開拓団の入植布置>

私は、参拝者がいなくなった苑内 170 数基の各団碑を巡りながら、拓魂碑やこのような団碑が建立された由来に思いを巡らせていた。何故、満洲開拓団が僅か 13 年間に 27 万人から 32 万人にも及ぶ大量の移民がなされたのか。何故、全国 47 都道府県全てから満洲開拓団が組織され送り出されていたのか。何故、満洲在留邦人の犠牲者の半数近い 8 万人が

開拓団員とその家族なのか不思議であった。碑文を読むと「世界に比類なき民族協和の平和村建設と、祖国防衛という高い理想を実現する為に重大国策として時の政府により行われたものであります」。とあり、祖国防衛とは何を意味しているのか碑文を眺めながら考え、ふと思いついた節が脳裏に浮かんだ。

2. 26 事件後に成立した広田内閣は、昭和 11 年 8 月に七大国策の一として「満洲農業移民 20 万年 100 万戸移住計画」を策定したが、これも関東軍が策定した計画を日本政府の国策として後追いで定め大量の移民を行っていたのだ。随意でないため、全国から限なく送り込まれたこともうなずける。また、農業開拓団なのだから未開の僻地なのは仕様が無いのかと思っていたのだが、忘れもしない 2008 年 12 月 5 日に国会図書館を訪ねて満洲開拓団関係の資料を漁っていた。そして「満洲開拓年鑑 康徳 11 年(1944 年)刊」の復刻版を手にし、そこで「各種開拓民の配分配置」なる文章に出会った。開拓第一線地帯、開拓第二線地帯及び開拓第三線地帯！！「開拓第一線地帯」とは、間島省より牡丹江、東安、三江、黒河、興安北省及び興安南省をいい、主として第一線皇軍に対する兵站基地、労力、軍馬、兵力の給源、宿営拠点を目指し、開拓民の十分の四を配置する。」と記述されていた。

さらに色々な資料を読んでいる中で、満洲国政府の開拓総局長を勤め、敗戦時には東滿総省（東安省と牡丹江省を合併）の省長であった五十子卷三が「満洲開拓政策の三大目標は国防の強化、農産の増産、民族協和であったと思う」とし、その中で特に国防に関して「満洲開拓民はどんな点で日滿共同国防の強化に貢献したか」というと、第一線の国境付近の開拓地は第一線軍の兵站基地—敵方への進出路、宿舍、食糧飼料労力車馬等の給源として役立つ—として、第二線主として小興安嶺から横道河子、鏡泊湖あたりを繋いだ線の内側の開拓地は、匪民分離の拠点として、そうして第三線即ちその他広く全滿の開拓地は農産増産の基地、民族協和の場として役立つということであった」（ああ満洲・国づくり産業開発者の手記 p647）と述べている。これは開拓団を関東軍の兵站基地・輜重兵と化す何ものでもない。＜輜重＞、大辞林によれば、輜は衣類を載せる車、重は荷を乗せる車の意。さらに旧陸軍で、前線に輸送・補給する食糧・被服・武器・弾薬などの軍需品の総称とある。輜重兵とはこれらを運ぶ兵隊のことである。何ということか満洲開拓団員は満洲国境で農地に固定した関東軍の輜重兵の役割を果たさせられていたのである。

満洲開拓団はそもそも武装移民団として送り込まれた経緯はあるが、それはまだ治安が安定していないからが理由と私は考えていた。しかし、防衛庁防衛研修所戦史室による「関東軍＜2＞」において「満洲国における居留民については、他の支那及び南方面と異なり国策に基づく開拓団という存在があり、その少なからざるものは関東軍の指導により国境に入植し、交通線の維持確保・生産・補給など兵站に一役も二役も買っていた。しかも根こそぎ動員において、そのうち兵役に堪える壮年層は殆ど召集され、さらに青少年義勇隊員 12,000 名も倉庫警備及び勤労奉仕に従事し、残る大部分は老幼婦女という団が少なくなかった」（p 353）。と満洲開拓年鑑や五十子氏の説を裏付けている。これが祖国防衛という文言で表された事由なのだろうか。

< 関東軍の北辺振興政策 >

ならば、関東軍が何時、開拓団を兵站基地や輜重兵にしようとしたのか。「満洲国史・総論編」によれば北辺振興については、少なくとも“支那事変”が勃発した 1937 年頃からであろうとしている。中国本土での戦局は当初の不拡大方針とは逆に燎原の火のように燃え広がり（日本軍が際限なく拡大した）、国際連盟を脱退したことにより、対外的には孤立化へと追い込まれていった。窮余の策がドイツ等との三国同盟、日ソ中立条約などであるが、関東軍はこれまでの作戦方針を変更し、日満一体となった防衛線を確保すべき必要に迫られ、防衛戦を満ソ国境においた。このため関東軍は大・小興安嶺、完達山脈の外側に配置されることになったが、自然環境劣悪のため、兵力の機動不便かつ後方の補給困難の状況であり、この隘路打開のため軍は満洲国、満鉄の協力が不可欠となった。政治上からは産業開発 5 ヶ年計画により、総体的には向上したが、地域差が大きく、鉄道沿線地帯は急速に発展したが、奥地は行政の浸透力も弱まり、殆ど放置状態のところが多くなかった。東北部国境方面では原住民が国境観念に乏しく、満ソ間を自由に往来しており、これらを是正し行政浸透と民心把握・安定が緊急の課題であった。さらに経済上からは多数の軍隊が国境方面に配置されると、その補給が大仕事であった。例えば日本軍に不可欠の米の補給は、北辺の寒冷地では現地調達が難しく、これを内鮮からの輸入に頼ると軍事輸送に支障をきたす。これを解決するには現地自給体制をとる以外に方法はなく、そのため開拓政策の推進、建設資材の生産工場配置等の措置が必要となってきた。と「満洲国史」は記述している。

関東軍は 1938（昭和 13）年 12 月、「国境方面における国防的建設に関する要望事項」を策定した。その要領で述べている重点的形勢地域は正に「開拓第一線地帯」に一致している（満洲国史総論編 p657）。これらのことから類推すれば、1939（昭和 14）年頃からは意図して開拓第一線である国境地帯に開拓団が入植させられていたのであろう。しかも日本政府の策定した 20 ヶ年、100 万戸の開拓団の移住入植は、昭和 14 年頃から急増しており、団数においては昭和 14 年に集団 40、分散 23、計 63 団、昭和 15 年には集団 64、集合 56、分散 12、計 132 団、昭和 16 年には集団 44、集合 32、分散 4、この年から義勇隊開拓団 68 が入植し、合計 148 団と急増しているが、関東軍の意のままに国境方面に配置され、銃器で武装させられていたのだ。これが祖国防衛の実態だったのだ。

< 開拓第一線地帯入植開拓団の犠牲者 >

敗戦時、国境の開拓第一線地帯に入植した開拓団はどうだったか。東安、間島、牡丹江、三江、黒河、興安北及び興安南の各省には開拓史等に基づく筆者のラフな推計では在籍者約 95,900 人で全満入植者の 39.8%であり、配置 40%と合致する。うち死亡者約 29,800 人で在籍者の 31%となる。未引揚者が約 15,800 人あり満蒙終戦史の前例により、その内約 60%が死亡者とするると死亡者の合計は 39,280 人となり在籍者の 41%である。全開拓団員在籍者 27 万人中死者 8 万人（29.6%）に比し、41%は極めて高い死亡率である。この中には義勇隊開拓団員も含まれ、義開団員は青年で独身者が多く避難行動が比較的容易であったことなどから、幼い子供を抱えた団員家族の犠牲は相対的に高いことが考えられるため、

数字以上に偏差がある筈だ。いずれにしても満洲開拓団の中にあつて国境第一線地帯に配置された開拓団は敗戦時には如何に過酷な状況であつたかを物語っている。

満洲開拓団は原住民の土地を収奪して入植したと非難され、侵略の先棒を担いだとして忘れ去れようとしている。しかし「満拓」と称する国策会社が事前に関買等を行い、殆どの開拓団員達は何も知らずに宛がわれた土地に入植したのだ。多くの開拓団は鉄道沿線から遠く、電気もないところで農耕に勤しんだのである。

最近、「昭和史の天皇 第6巻 昭和44年刊、読売新聞」を再度開いた。「満洲の田舎にいた日本人、つまり開拓団の人達がどんな目にあつたかについても触れておかねば片手落ちになる、それにこの人達は、世界移民史上かつて見ない悲惨な最期を遂げた人々だったのだから、なおさら省くわけにはいかない。もともと移民という言葉は、新天地を求めて海外に雄飛するロマンチックな夢や志望がひそむ反面、故郷を食い詰めて日本を出て行くといった暗い語感ももっている。しかし、満洲開拓団も、その移民には違いないが、ただの一攫千金的な熱に浮かれて出たものでもなければ、食い詰めた人たちの集団移動でもなく、ひたすらわが国策として送り出されてきたものだった、それだけに、その末路が一層あわれなのである」と。確かに前に述べたように全国47都道府県全てから、東京都や北海道も例外ではなく送り出しているのだ。

改めて考える。世界の移民史の中で、直接軍事目的の移民で全国の行政単位全てから移出させた事例があつたらうか。加えて27万人から32万人もの短期間・大量の集団移民は現地での、特に土地に絡む摩擦が大きいことは言うまでもないことなのだ。約5万人もの頼みの夫や父は召集されて不在。加えて関東軍の防衛視点から原住民の強制立退き・特定部落への強制的集約等。僅か13年間。恨みを持った原住民本人・当事者が健在だった。ソ連軍が侵攻する前から各方面軍司令部等は軒並み後退しており、戦闘最中の8月10日~12日にかけて戦闘部隊の前線からの転進・撤退が命令されていた。そして敗戦。天地逆転。22万人もの逃避。略奪・暴行、飢え・寒さ・伝染病。退避避難中の犠牲者1万2,000人、都市部に収容されても窓や扉を破壊された寒風吹きすさぶ学校等、飢え、酷寒30度に達する寒さ、栄養失調による病気・伝染病等による死者6万8,000人、合計犠牲者8万人。農民である移住者の36%もの犠牲者。何たることか。

「拓魂」、あの碑文は満洲開拓を推進した者が書くものだったのだろうか。慰霊祭当日の公苑の鎖掛けのままの入り口。あの錆びた鉄パイプで縛られた団碑、昨21年は他に所用があつて参加できなかったが、平成20年にお会いし話を伺った阿城大谷団の方は90歳を過ぎていらしたが今年はお見えではなかった。静に減少しつつある参拝者。拓魂碑の存在がひっそりと忘れ去られようとしているのではないか。私は“物言わぬ農民”を見た思いだった。満洲開拓団員は祖国防衛のために犠牲となつたのだ。施設は東京都に寄付されたと言うが、もっと国民的に慰霊されてしかるべきでなかろうか。

(みやした・はるお：1936年富山県生まれ、1943年満洲開拓団員の家族として渡満、1953年帰国、1994年通商産業省（当時）を退職、宝飾業界等を経て現在無職。09年8月、方正友好交流の会主催の「歴史検証の旅」に参加。方正日本人公墓を参拝した)